

## 運用保守 SLA 基準表に定める性能（オンライン応答時間） における測定方法等について

### 1 前提条件

測定にあたりクライアント環境及びネットワーク環境が大きく影響するため、県が指定した端末を使用し、三重県行政WAN内の環境にて実施する。

### 2 測定日時

測定は月例会終了後に実施する。

ただし、月例会終了時刻が17:00以降となる場合、県と協議のうえ測定日時を変更できるものとする。

### 3 測定方法

以下の測定を実施し、処理時間を実測値で報告する。

ただし、ネットワーク障害等の原因により、県が適正な実測値でないと判断した場合は、測定のカウントは行わないこととし、再測定を実施することができる。

#### (1) 入札情報サービスシステム検索画面・・・・・・・・①

- ・条件指定検索画面にて、検索件数が1,000件程度となるよう条件を指定し、検索ボタン押下後、検索が完了するまでの時間を県が用意するストップウォッチで2名体制(県1名、受託者1名)で測定し、値の大きい数値を記録する。
- ・測定は測定日において、5回実施し、最高・最低値を排除した3回を有効値とする。

#### (2) 電子入札システム受注者向け入札画面・・・・・・・・②

- ・システム管理者用の発注機能を使用して、指名競争入札案件を5件登録する。
- ・各案件についてテスト用の受注者3者に対して指名通知書を発行し、入札書とファイル(県が3MB以内となるサンプルを用意する。)を添付し送信する。この時にJavaの処理容量(ヒープサイズ)の最大値をオプション設定で128MBに拡張して行う。
- ・入札書提出ボタンを押してから、入札書受信確認通知が表示されるまでの時間を県が用意するストップウォッチで2名体制(県1名、受託者1名)で測定し、値の大きい数値を記録する。
- ・測定は測定日において、5回実施し、最高・最低値を排除した3回を有効値とする。

#### (3) 電子入札システム発注者向け開札画面・・・・・・・・③

- ・上記(2)の案件について一括開札ボタンを押下し、開札処理が終了するまでの時間を県が用意するストップウォッチで2名体制(県1名、受託者1名)で測定し、値の大きい数値を記録する。
- ・測定は測定日において、5回実施し、最高・最低値を排除した3回を有効値とする。

## 4 サービスレベル基準値を超過した測定結果となった場合

3 測定方法に基づき、必要とされる遵守率の範囲内であってもサービスレベル基準値を超過した測定結果となった場合は、受託者は速やかに原因調査を実施すること。

また、調査の結果、県が本システムに原因があると判断した場合は、受託者はその対策を講じなければならない。

## 【遅延原因分析フロー】

